



NOMURA

2025年3月期第4四半期 決算説明資料

米国会計基準(US GAAP)

2025年4月

野村ホールディングス株式会社

金融資本市場の力で、世界と共に挑戦し、豊かな社会を実現する

We aspire to create a better world by harnessing the power of financial markets

© Nomura

CFOの北村です。

それでは、2025年3月期の決算についてご説明いたします。2ページをご覧ください。

目次

プレゼンテーションの概要

- エグゼクティブ・サマリー(P2-4)
- 2025年3月期決算の概要(P5)
- セグメント情報(P6)
- ウェルス・マネジメント部門(P7-9)
- インベストメント・マネジメント部門(P10-11)
- ホールセール部門 (P12-14)
- 金融費用以外の費用(P15)
- 強固な財務基盤を維持(P16)

Financial Supplement

- バランス・シート関連データ(P18)
- バリュース・アット・リスク(P19)
- 連結決算概要(P20)
- 連結損益(P21)
- 連結決算：主な収益の内訳(P22)
- 連結決算：セグメント情報と地域別情報 税前利益(損失)(P23)
- セグメント「その他」(P24)
- ウェルス・マネジメント部門関連データ(P25-28)
- インベストメント・マネジメント部門関連データ(P29-30)
- ホールセール部門関連データ(P31)
- 人員数(P32)

エグゼクティブ・サマリー(1/2)

2025年3月期通期の決算ハイライト

- 当期純利益¹は3,407億円と、過去最高益を達成
 - 主要3セグメントがすべて好調 ～安定収益²の拡大やホールセール部門収益の多様化、コスト・コントロールなど、中長期的な取り組みがさらに進展
 - 海外3地域の税前利益は1,370億円 ～収益性が大幅に改善し、全社の実効税率を押し下げ(実効税率:26%)
- 3セグメント合計の税前利益は80%増 ～各セグメントが収益を伸ばす一方で費用を抑制し、大幅増益を達成
 - ウェルス・マネジメント部門の税前利益は11年ぶりの高水準 ～包括的な資産管理ビジネスの提供を推進、ストック収入は前年比で約3割増加
 - インベストメント・マネジメント部門も部門設立以降の最高益 ～事業収益は2021年4月の部門設立以降で最高、投資損益も改善
 - ホールセール部門の税前利益は15年ぶりの高水準 ～すべてのビジネスライン、すべての地域で収益が伸長する一方、コスト・コントロールは徹底

積極的な株主還元を実施

一株当たり配当金

期末34円

(普通配当24円、記念配当10円)

年間57円

(配当性向49.4%)

自己株式取得

- 株数:1億株(上限)
- 金額:600億円(上限)
- 期間:5月15日～12月30日

	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	前年比
収益(金融費用控除後)	1兆5,620億円	1兆8,925億円	21%
税前利益(損失) ¹	2,739億円	4,720億円	72%
当期純利益(損失) ¹	1,659億円	3,407億円	105%
EPS ³	52.69円	111.03円	111%
ROE	5.1%	10.0%	

税前利益(損失):セグメント情報	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	前年比
ウェルス・マネジメント部門	1,227億円	1,708億円	39%
インベストメント・マネジメント部門	602億円	896億円	49%
ホールセール部門	539億円	1,663億円	3.1x
3セグメント合計	2,368億円	4,266億円	80%
その他	474億円	469億円	-1%
営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	-103億円	-15億円	-
税前利益(損失)合計	2,739億円	4,720億円	72%

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)

2. ウェルス・マネジメント部門のストック収入、インベストメント・マネジメント部門の事業収益等

3. 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)

2

まず、通期です。

左下にありますように、収益は1兆8,925億円、前年比21%の増収、税前利益は4,720億円、前年比72%の増益、当期純利益は過去最高の3,407億円、前年比2.1倍の増益となりました。EPSは111円03銭、ROEは10%と、非常に強い決算となっております。

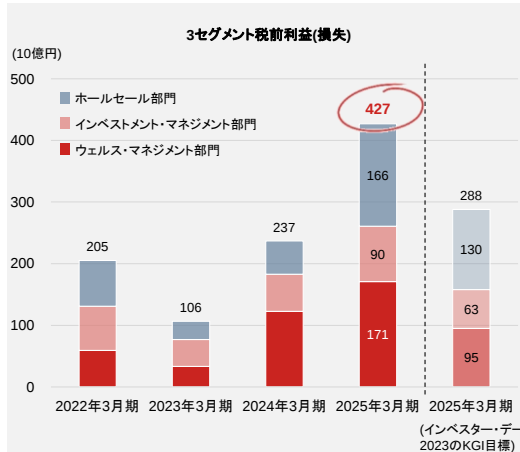
右下にありますように、今期は主要3セグメントがすべて好調で、3セグメント合計の税前利益は4,266億円、80%の増益です。特にハイライトすべきは、中長期的な取り組みの成果が業績面にしっかりと現れている点です。

ウェルス・マネジメント部門では、包括的な資産管理ビジネスの提供を通じて、ストック資産純増が継続し、マーケット好転によるお客様の資産拡大も相俟って、ストック収入が約3割増加しました。インベストメント・マネジメント部門でも、8四半期連続で資金純流入となり、運用資産残高が高水準で推移した結果、事業収益は約2割増加しました。両部門に共通するのは、いわゆる「安定収益」の着実な積み上がりです。ホールセール部門では海外を中心に収益の多様化が進み、すべてのビジネスライン、すべての地域で収益が拡大しました。各部門で収益を伸ばす一方、コスト・コントロールを徹底し、税前利益は大幅に拡大しています。

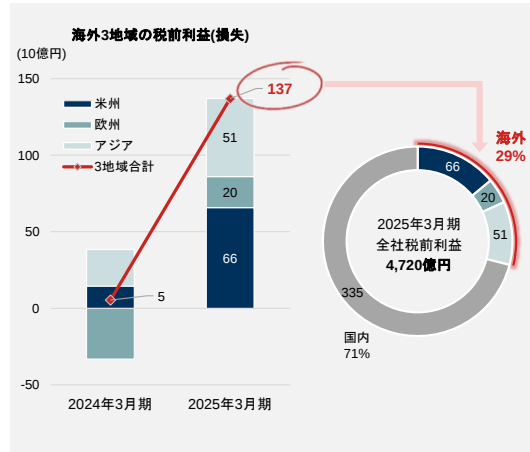
その結果、ウェルス・マネジメント部門の税前利益は11年ぶりの高水準、ホールセール部門は15年ぶりの高水準、インベストメント・マネジメント部門も、2021年4月の部門設立後、最高益となりました。

【補足】2025年3月期通期のポイント

中長期的な取り組みにより、3セグメントが大幅増益
インベスター・デー2023で掲げたKGI目標をすべて達成



海外3地域からの利益貢献が拡大
税前利益は過去最高¹の1,370億円
全社利益に占める割合は29%に上昇



1. 地域別情報の開示を始めた2003年3月期以降

3

3ページの左側にありますように、2023年5月のインベスター・デーで掲げた2025年3月期の税前利益目標は、すべての部門で達成しています。

右側の海外3地域も、収益性が大幅に改善しています。税前利益は1,370億円と、地域別情報の開示を始めた2003年3月期以降で最高となっており、一部の海外エンティティで繰越欠損金の活用が進み、全社の実効税率を26%まで押し下げました。

もう一度、2ページにお戻りください。

こうした好業績を背景に、3月末を基準とする普通配当は一株当たり24円、前回発表した創立100周年の記念配当10円と併せて、期末配当34円といたします。年間配当は57円、配当性向は49%となっています。

さらに本日、資本効率の向上および機動的かつ柔軟な資本政策の実施を可能とし、また、株式報酬として交付する株式へ充当するため、自己株式の取得を決議しました。株数の上限を1億株、金額の上限を600億円、期間は本年5月15日から12月30日といたします。

エグゼクティブ・サマリー(2/2)

2025年3月期第4四半期の決算ハイライト

■ 税前利益・当期純利益ともに好調だった前四半期からは減速も、ROE 8.2%と堅調

- 収益: 4,527億円(前四半期比10%減)、税前利益: 977億円(同29%減)、当期純利益¹: 720億円(同29%減)、EPS²: 23.39円、ROE³: 8.2%
- 海外3地域は7四半期連続の黒字(税前利益: 285億円)、実効税率を押し下げ(実効税率: 24%)

■ 3セグメント税前利益901億円(同29%減) ~フロー収入等やフィクスト・インカムが減収も、安定収益は着実に増加、エクイティやインベストメント・バンキングは好調を維持

■ ウェルス・マネジメント部門:

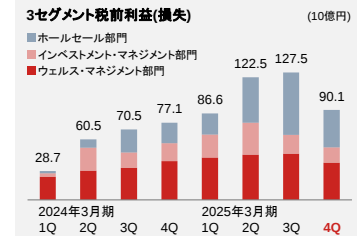
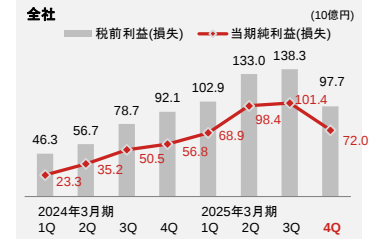
- 安定収益であるストック収入は過去最高を更新、コスト削減の取り組みが奏功し、ストック収入費用カバー率は76%に上昇。不透明な市場環境を受けてフロー収入等が減速

■ インベストメント・マネジメント部門

- アセットマネジメント・ビジネスが好調で安定収益である事業収益は部門設立⁴以降で最高、投資損益が悪化

■ ホールセール部門

- エクイティとインベストメント・バンキングは増収基調を維持
- フィクスト・インカムは好調だった前四半期からは減収

税前利益(損失)、当期純利益(損失)¹の推移

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)
 2. 標準化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)
 3. 各期間の当社株主に帰属する当期純利益を年率換算して算出

4. 2021年4月

続いて、第4四半期の決算についてご説明します。4ページをご覧ください。
 なお、いまから申し上げるパーセンテージは、すべて第3四半期との比較となります。

まず全社ですけれども、収益は4,527億円、10%の減収、税前利益は977億円、29%の減益、当期純利益は720億円、29%の減益、EPSは23円39銭となりました。好調だった前期と比較して、今期は円金利が上昇し、株価が下落する難しい環境でしたが、年換算したROEは8.2%と、2030年の経営目標である「ROE 8~10%+」の下限を、4四半期連続でクリアしました。

右下にありますように、主要3セグメントの税前利益は901億円。不透明な市場環境を受けてウェルス・マネジメント部門のフロー収入や、ホールセール部門のフィクスト・インカムが減収となりましたが、ストック収入や事業収益と言った安定収益はさらに積み上がり、エクイティやインベストメント・バンキングも強い決算となっています。

それでは、各ビジネスの第4四半期の状況について、ご説明いたします。
 7ページをご覧ください。

2025年3月期決算の概要

決算ハイライト

(10億円、EPS及びROEを除く)

	24年3月期		2025年3月期				前四半期比	前年同期比	24年3月期	25年3月期	前年同期比
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				通期	通期	
収益合計(金融費用控除後)	445.1	454.4	483.3	502.0	452.7	-10%	2%		1,562.0	1,892.5	21%
金融費用以外の費用	353.0	351.5	350.3	363.7	355.0	-2%	1%		1,288.2	1,420.5	10%
税前利益(損失)	92.1	102.9	133.0	138.3	97.7	-29%	6%		273.9	472.0	72%
当期純利益(損失) ¹	56.8	68.9	98.4	101.4	72.0	-29%	27%		165.9	340.7	105%
EPS ²	18.02円	22.36円	32.26円	33.08円	23.39円	-29%	30%		52.69円	111.03円	111%
ROE ³	6.8%	8.1%	11.6%	11.8%	8.2%				5.1%	10.0%	

1. 当社株主に帰属する当期純利益(損失)
2. 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)
3. 各期間の当社株主に帰属する当期純利益を率換算して算出

セグメント情報

収益合計(金融費用控除後)、税前利益(損失)

(10億円)		24年 3月期	2025年3月期				前四半 期比	前年 同期比	24年3月期	25年3月期	前年 同期比
		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			通期	通期	
収益	ウェルス・マネジメント部門	108.8	114.0	116.7	116.3	104.5	-10%	-4%	402.4	451.5	12%
	インベストメント・マネジメント部門	43.6	47.7	56.1	45.7	43.0	-6%	-1%	154.1	192.5	25%
	ホールセール部門	254.2	244.8	263.4	290.5	259.2	-11%	2%	866.1	1,057.9	22%
	3セグメント合計	406.5	406.5	436.2	452.5	406.7	-10%	0%	1,422.7	1,701.9	20%
	その他(※)	34.4	46.7	50.4	48.8	46.2	-5%	34%	149.7	192.1	28%
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	4.2	1.2	-3.2	0.6	-0.2	-	-	-10.3	-1.5	-
収益合計(金融費用控除後)		445.1	454.4	483.3	502.0	452.7	-10%	2%	1,562.0	1,892.5	21%
税前利益 (損失)	ウェルス・マネジメント部門	38.8	42.3	45.3	46.2	37.0	-20%	-4%	122.7	170.8	39%
	インベストメント・マネジメント部門	17.8	23.2	31.9	18.9	15.5	-18%	-13%	60.2	89.6	49%
	ホールセール部門	20.6	21.1	45.3	62.4	37.5	-40%	82%	53.9	166.3	3.1x
	3セグメント合計	77.1	86.6	122.5	127.5	90.1	-29%	17%	236.8	426.6	80%
	その他(※)	10.8	15.1	13.7	10.2	7.8	-23%	-27%	47.4	46.9	-1%
	営業目的で保有する投資持分証券の評価損益	4.2	1.2	-3.2	0.6	-0.2	-	-	-10.3	-1.5	-
税前利益(損失) 合計		92.1	102.9	133.0	138.3	97.7	-29%	6%	273.9	472.0	72%

※ 2025年3月期第4四半期の「その他」に関する補足
■ 経済的ヘッジ取引に関連する利益(22億円)
■ デリバティブに関する自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益(6億円)

ウェルス・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

(10億円)	24年 3月期	25年 3月期	24年 3月期	2025年3月期				前四 半期比	前年 同期比
	通期	通期	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
収益合計(金融費用控除後)	402.4	451.5	108.8	114.0	116.7	116.3	104.5	-10%	-4%
金融費用以外の費用	279.7	280.7	70.0	71.7	71.4	70.1	67.5	-4%	-4%
税前利益/損失	122.7	170.8	38.8	42.3	45.3	46.2	37.0	-20%	-4%

収益の内訳

(10億円)	24年 3月期	25年 3月期	24年 3月期	2025年3月期				前四 半期比	前年 同期比
	通期	通期	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
■ フロー収入等									
■ ストック収入									
ストック収入 ¹	153.5	198.1	41.8	45.8	50.3	50.4	51.6	2%	24%
フロー収入等 ²	248.9	253.4	67.0	68.2	66.4	65.9	52.9	-20%	-21%
収益合計(金融費用控除後)	402.4	451.5	108.8	114.0	116.7	116.3	104.5	-10%	-4%

1. 残高から発生する収入や継続的に発生する収入(投資信託、投資一任、保険、ローン、レバレッジ等)。 2. 取引に付随して発生する収入(フロー・レバレッジ収入、コンサルティング関連収入)、ローン関連以外の金融収益等
3. 法人課を除く 4. 地域金融機関を除く、現金および債券の流入から流出を差引 5. ストック収入を金融費用以外の費用で除したものの

決算のポイント

<通期>

収益: 4,515億円 (前年比12%増)
税前利益: 1,708億円 (前年比39%増)

■ 税前利益は2014年3月期以来、11年ぶりの高水準

- 資産管理型ビジネスがさらに進展し、2025年3月期のKPI目標はすべて達成。特に純増を伴ってストック資産が拡大したことで、安定収益であるストック収入は前年比で29%増加
- 複数年に渡るコスト削減の取り組みが成果として結実

<第4四半期>

収益: 1,045億円 (前四半期比10%減、前年同期比4%減)

税前利益: 370億円 (前四半期比20%減、前年同期比4%減)

ストック収入

- 投資信託を中心に幅広い商品・サービスが買い越しとなり、ストック資産純増は継続(+2,656億円)
- ストック収入は過去最高。～半期ごとに収受する投資助言報酬が貢献

フロー収入等

- フロー収入等が減少。～プライマリー株式募集額が減少したほか、不透明な市場環境を背景にセカンダリー株式取引や投信買付が減速

資産拡大項目	2025年3月期 3Q	2025年3月期 4Q
投信純増 ³	+2,037億円	+3,019億円
投資一任純増 ³	+659億円	+352億円
現金本券差引 ⁴	-1,315億円	+3,805億円
ストック収入費用カバー率 ⁵	72%	76%

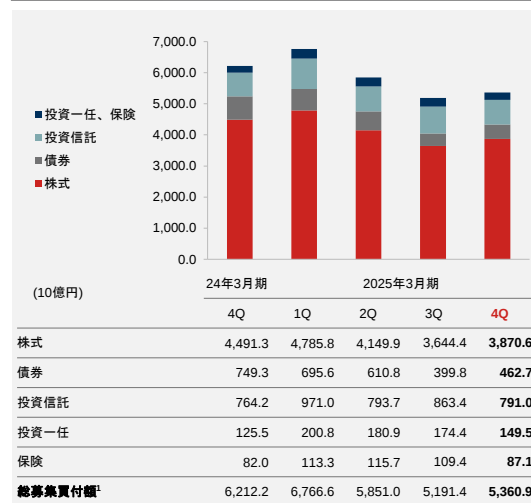
ウェルス・マネジメント部門の収益は1,045億円、10%の減収、税前利益は370億円、20%の減益となりました。

安定収益であるストック収入は、半期ごとに認識する助言フィーが貢献し、過去最高の516億円、一方で費用を4%減にコントロールした結果、ストック収入費用カバー率は76%と、大きく上昇しました。

フロー収入等は529億円、20%の減収です。プライマリー株式募集額が45%減少したこと、また不透明な市場環境を背景にセカンダリー株式の売買や投信買付がスローダウンしたことが要因です。

四半期業績は、その時々市場環境でどうしても凸凹しますが、通期を見ていただくと、収益を+12%、金額にして490億円程度のばす一方で、費用は僅か10億円の増加に抑えることが出来ています。これは、兼ねてより取り組んで来たコスト削減の成果でもあります。その結果、税前利益にレバレッジが掛かり、39%の増益となりました。

ウェルス・マネジメント部門:総募集買付額

総募集買付額¹⁾総募集買付額²⁾は前四半期比3%増

- 株式: 前四半期比6%増
 - 大口の買いにより、買付額が増加。株式市場がレンジ相場だったことや先行き不透明感から投資家による様子見姿勢が継続し、セカンダリー株式は減少
 - プライマリー株式募集額は前四半期から減少(2,615億円、前四半期比45%減)
- 債券販売額: 前四半期比16%増
 - プライマリー案件の貢献により外債販売額が増加
- 投資信託: 前四半期比8%減
 - 新規設定したプライベート・インフラ企業の株式に投資する公募投信が貢献も、市場環境の不透明感の高まりを背景に、期末にかけて買付が減速
- 投資一任契約: 前四半期比14%減
 - SMA、ファンドラップ契約額は前四半期比で減少
- 保険販売額: 前四半期比20%減
 - 季節性もあり前四半期比で減少も、老後資金や相続準備ニーズは引き続き堅調

1. 法人課およびワークプレイス・ソリューション部を除く

プロダクト別の募集買付状況について、8ページでご説明します。

総募集買付は5.4兆円と、前期から3%増加しました。

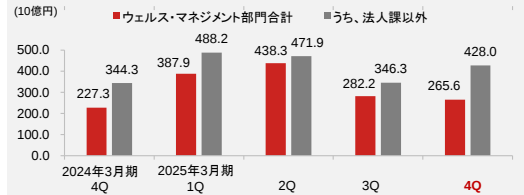
株式は3.9兆円、大口の買いもあって6%増加。債券販売も、トヨタ・モーター・クレジット・ファイナンスのプライマリー案件が貢献し、16%増加しました。

一方で、株式市場がレンジ相場だったことや先行き不透明感から投資家の様子見姿勢が続く、大口の買いを除いたセカンダリー株式や、投信募集買付は減少しています。

ウェルス・マネジメント部門: 2025年3月期のKPI目標をすべて達成

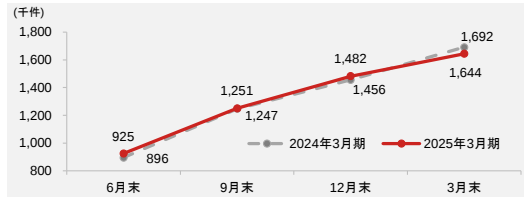
ストック資産純増¹

- 投資信託、ローン、保険、投資一任を中心にストック資産純増が継続
- 2025年3月期のKPI目標を達成(通期:1兆3,740億円 vs. 年間KPI目標 8,000億円)



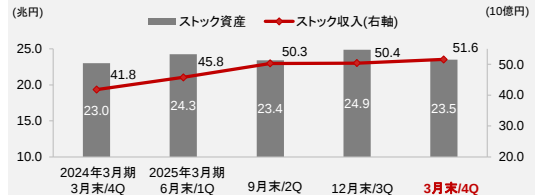
フロービジネス顧客数

- 先行き不透明感の高まりを背景に、期末に向けて積み上がり率が鈍化するも、2025年3月期 KPI目標(146万件)は大幅に上回って着地



ストック資産およびストック収入²

- 期末のストック資産は市場要因で減少も、2025年3月期KPI目標(22.3兆円)を上回って着地。半期ごとに収受する投資助言報酬が貢献し、ストック収入は過去最高



ワークプレイスサービス提供数

- 持株会関連を中心に順調に拡大し、2025年3月期の目標(366万件)を大幅に超過



1. 投資分配金による純減を含まず、レベルファイア口座内の投資純増を控除した数値。2025年3月期1Qにストック資産純増の定義を見直したことから、2024年3月期4Q以前の数字を選及修正
2. 残高から発生する収入や継続的に発生する収入(投資信託、投資一任、保険、ローン、レベルファイア等)

続いて、9ページがKPIの進捗です。

ウェルス・マネジメント部門では、2025年3月期に向けて、ストック資産純増、ストック資産、フロービジネス顧客数、ワークプレイスサービス提供数の4つを、部門KPIとして注力してまいりました。ご覧いただいているように、すべての項目で目標を達成しています。

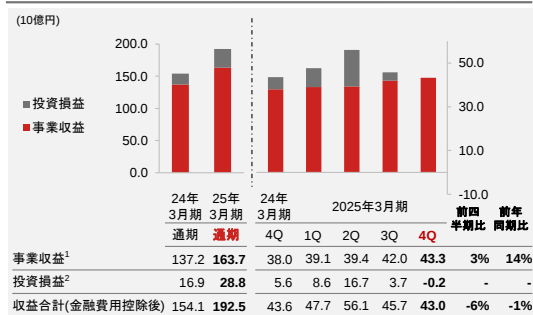
なかでも、左上のストック資産純増は年間目標8,000億円を大幅に上回る1兆3,740億円となり、ストック収入の拡大に寄与しました。右下のワークプレイスビジネス提供数は388万件、持株会関連を中心に、お客様の裾野拡大に向けた取り組みも順調です。

インベストメント・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

(10億円)	24年 3月期	25年 3月期	24年 3月期	2025年3月期				前四 半期比	前年 同期比
	通期	通期	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
収益合計(金融費用控除後)	154.1	192.5	43.6	47.7	56.1	45.7	43.0	-6%	-1%
金融費用以外の費用	93.9	102.9	25.8	24.5	24.2	26.8	27.5	3%	6%
税前利益/損失	60.2	89.6	17.8	23.2	31.9	18.9	15.5	-18%	-13%

収益の内訳



1. 投資損益を除き、アセット・マネジメント事業(ACI関連損益を除く)及び野村/バブcockアンドブラウンの航空機リース関連事業の収益並びにプライベート・エクイティ等の投資事業から得られるGP管理報酬を含む収益で構成

2. ACI関連損益、プライベート・エクイティおよびクレジット等の投資事業並びに投資に起因する収益(公正価値の変動、資金調達コスト、運用報酬、配当金を含む)で構成

10

決算のポイント

<通期>

収益: 1,925億円 (前年比25%増)
税前利益: 896億円 (前年比49%増)

- 部門収益・税前利益はともに、2021年4月の部門設立以降で最高
 - 安定収益である事業収益は前年比19%増 ~資金純流入(+2.6兆円)を伴い、運用資産残高は拡大
 - 投資損益も増加 ~アメリカン・センチュリー・インベストメンツ(以下、ACI)関連損益が倍増

<第4四半期>

収益: 430億円 (前四半期比6%減、前年同期比1%減)
税前利益: 155億円 (前四半期比18%減、前年同期比13%減)

事業収益

- 収益: 433億円 (前四半期比3%増、前年同期比14%増)
 - アセット・マネジメント・ビジネスは好調 ~5四半期連続で事業収益は2021年4月の部門設立以降で最高を更新
 - 期末の運用資産残高は市場要因により減少も、運用報酬は前四半期並みの高水準で推移
 - 航空機リースを手掛ける野村バブcockアンドブラウンは前四半期比で増収

投資損益

- 収益: -2億円
 - ACI関連損益は小幅なマイナスに転じるも、野村キャピタル・パートナーズ投資先企業の評価益は前四半期比で増加

続いて、インベストメント・マネジメント部門です。10ページをご覧ください。

収益は430億円、6%の減収、税前利益は155億円、18%の減益となりました。

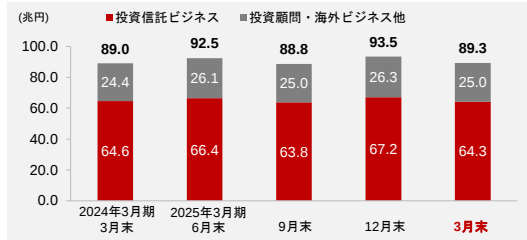
減収の背景は、投資損益です。プライベート・エクイティ投資を手掛ける野村キャピタル・パートナーズでは、投資先企業のバリューアップが進み、評価益を計上していますが、ACI関連損益は小幅なマイナスとなりました。

一方で安定収益である事業収益は433億円と、5四半期連続で、部門設立以降の最高を更新しています。3月末の運用資産残高はマーケット要因で減少していますが、運用報酬は前期並みの高水準です。また航空機リース・ビジネスも増収となりました。

それでは、事業収益の元となっているアセット・マネジメント・ビジネスの状況について11ページでご説明します。

インベストメント・マネジメント部門：

資金純流入を伴い、オルタナティブ運用資産残高は過去最高を更新

運用資産残高(ネット)¹

<第4四半期>

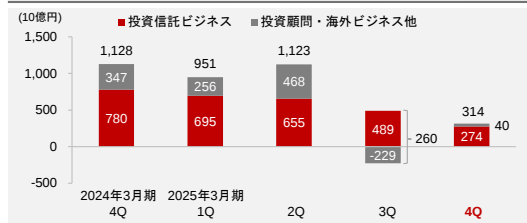
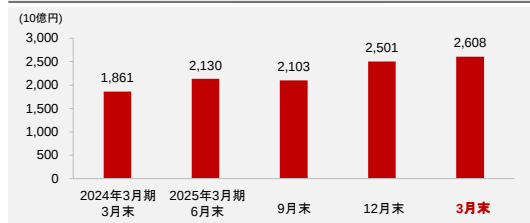
8四半期連続で資金純流入を達成、運用資産残高は2025年3月期KPI目標(89兆円)を上回って着地

投資信託ビジネス

- MRF等は約4,200億円の資金流出も、ETFに約6,700億円、投信(ETF、MRF等除く)に約230億円の資金が流入
- ETF:3月のマーケット下落局面を中心に、日本株に資金が流入
- 投信(ETF、MRF等除く):機関投資家向け私募投信から資金が流出も、プライベート・アセットの新商品やバランス型へ流入

投資顧問及び海外ビジネス他

- 国内は、グローバル株を中心にマニデートを獲得
- 海外は、日本株アクティブに資金が流入も、ハイ・イールド債から流出

資金純流入²オルタナティブ運用資産残高³は資金純流入を伴い拡大

1. 運用資産残高には、野村アセットマネジメント、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、ウエルス・スクエアの運用資産の単純合計(グロス)から重複資産を控除したものに、インベストメント・マネジメント部門傘下の運用会社の運用資産に対する第三者による投資額を含む。 2. 運用資産残高(ネット)に基づく 3. 野村アセットマネジメントのオルタナティブ運用資産残高並びにインベストメント・マネジメント部門傘下の運用会社の運用資産に対する第三者による投資額の合計

左上にありますように、3月末の運用資産残高は89.3兆円と、2025年3月期のKPI目標である89兆円を上回って着地しました。

左下の資金純流入は3,140億円と、8四半期連続の流入。うち、投信ビジネスが約2,700億円の流入です。待機資金であるMRF等は新たな買いに向かう動きで4,200億円の流出、一方でETFは3月のマーケット下落局面を中心に日本株等に約6,700億円が流入、また投資信託では、日本初のプライベート・インフラ企業の株式に投資を行う国内籍公募投信や、バランス型投信に資金が流入しました。

右下のオルタナティブ運用資産残高は2.6兆円と、過去最高です。円高進行がマイナス方向に寄与する一方で、先ほど申し上げたプライベート・インフラ企業の株式に投資する投資信託への流入、キャピタル・コールに伴う機関投資家から追加出資で、約1,700億円の資金純流入となりました。

ホールセール部門

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

(10億円)	24年 3月期	25年 3月期	24年 3月期	2025年3月期				前四 半期比	前年 同期比
	通期	通期	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
収益合計(金融費用控除後)	866.1	1,057.9	254.2	244.8	263.4	290.5	259.2	-11%	2%
金融費用以外の費用	812.2	891.7	233.6	223.7	218.1	228.2	221.7	-3%	-5%
税前利益/損失	53.9	166.3	20.6	21.1	45.3	62.4	37.5	-40%	82%
経費率	94%	84%	92%	91%	83%	79%	86%		
収益/調整リスク・アセット ¹	6.8%	7.6%	7.9%	7.3%	7.4%	8.2%	7.3%		

決算のポイント

<通期>

収益:1兆579億円(前年比22%増)、税前利益:1,663億円(前年比3.1倍)

- 全てのビジネスライン、全ての地域が増収を達成
- 部門収益を22%伸ばす一方で費用を10%増に留めた結果、税前利益は2010年3月期以来、15年ぶりの高水準

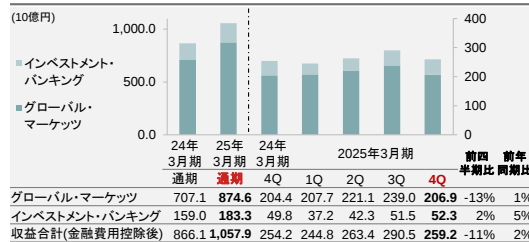
<第4四半期>

収益: 2,592億円(前四半期比11%減、前年同期比2%増)

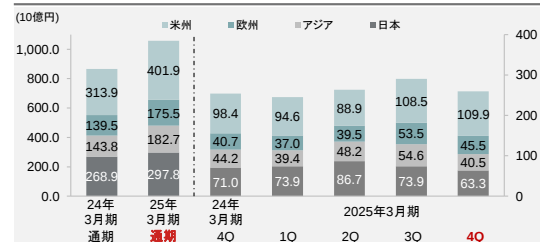
税前利益: 375億円(前四半期比40%減、前年同期比82%増)

- エクイティは米州好調により5四半期連続で増収、フィクスト・インカムは減収
- インベストメント・バンキングは欧州の貢献により増収基調を維持

ビジネスライン別の収益



地域別収益



1. ホールセール部門収益合計(金融費用控除後、年換算)を、ホールセール部門が使用する調整リスク・アセット(各会計期間の日次平均)で除したものを、調整リスク・アセット(各会計期間の日次平均)は米国会計原則に基づかない指標で、(1)バーゼル3規制のリスク・アセットと、(2)バーゼル3規制の資本調整項目を当社が内部で設定する最低資本比率で除して算出したリスク・アセット相当額の合計

12

次にホールセール部門です。12ページをご覧ください。

ホールセール部門の収益は2,592億円、11%の減収、税前利益は375億円、40%の減益となりました。

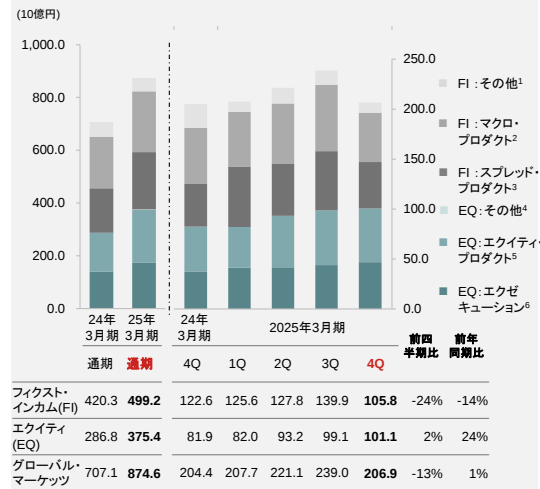
エクイティは米州が好調で5四半期連続の増収、インベストメント・バンキングも欧州が貢献し、増収。一方でフィクスト・インカムは、強かった前期から減速しました。

尚、ホールセール部門では、2025年3月期のKPI目標として、経費率86%、収益/調整リスクアセット比率6%以上を掲げていましたが、左上にありますように通期の実績はそれぞれ84%、7.6%と、こちらもKPI目標を達成しています。部門収益を22%伸ばす一方で、費用を10%増に留めた結果、税前利益は3.1倍の大幅増益となっています。

では、ビジネスラインごとに、説明します。13ページをご覧ください。

ホールセール部門:グローバル・マーケット

収益合計(金融費用控除後)



決算のポイント

<通期>

収益:8,746億円(前年比24%増)

- すべての主要プロダクトが前年比増収～エクイティ・プロダクト、エグゼキューション、証券化商品が好調、アジア・中東で展開する海外富裕層ビジネスも大幅増収
- すべての地域で前年比増収～米州中心に海外3地域の収益が伸長

<第4四半期>

収益:2,069億円(前四半期比13%減、前年同期比1%増)

- フィクスト・インカムは、好調だった前四半期までの反動もあり、減収
- エクイティは顧客アクティビティの増加を受けて米州が好調、5四半期連続で増収

フィクスト・インカム

■ 収益:1,058億円(前四半期比24%減、前年同期比14%減)

- マクロ・プロダクト:金利ビジネスは期の後半の不透明な市場環境下、顧客アクティビティが低下し減収。FX/エマーゼは好調だった前四半期から減収
- スプレッド・プロダクト:証券化商品は好調だった前四半期比で減収も、高収益を維持。クレジットはスプレッドの拡大を受けて減収

エクイティ

■ 収益:1,011億円(前四半期比2%増、前年同期比24%増)

- エクイティ・プロダクト:アジア・日本が減収も、ボラティリティ上昇と顧客アクティビティ増加から米州が大幅増収
- エグゼキューション:出来高の増加を受け、7四半期連続で増収

1. 海外富裕層ビジネス、インベストメント・バンキングとの共営ビジネス、その他各デスクに帰属しない損益 2. 金利プロダクト、為替エマーゼ 3. クレジット、証券化商品
4. インベストメント・バンキングとの共営ビジネス、その他各デスクに帰属しない損益 5. キャッシュおよびデリバティブのトレーディング、プライム・サービス 6. 株式執行ビジネス

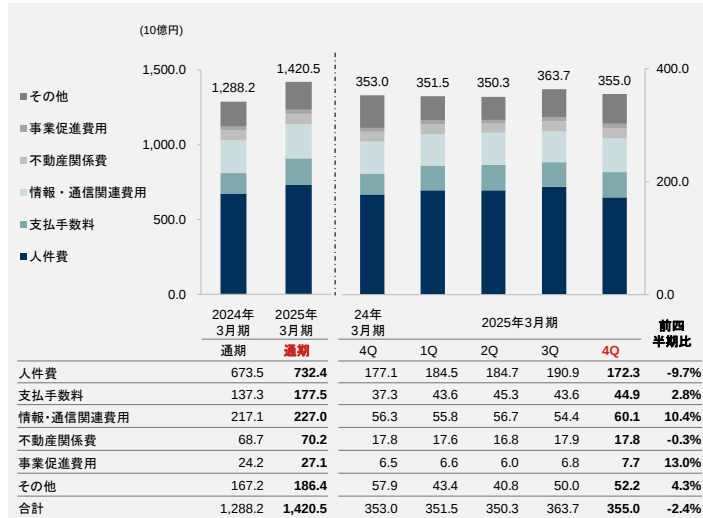
まず、グローバル・マーケット収益は2,069億円、13%の減収です。

うち、フィクスト・インカムは1,058億円と、好調だった前期までの反動もあり、24%の減収となりました。

金利ビジネスは、期の後半にかけて顧客アクティビティが低下し、減収。またクレジットも、スプレッドのワイドニングを背景に苦戦しました。一方で、為替／エマーゼや証券化商品は、好調だった前期比では減収ですが、引き続き、確りしています。

エクイティ収益は1,011億円と、5四半期連続の増収となりました。特に米州が好調で、ボラティリティの上昇や顧客アクティビティの増加を背景にデリバティブが大幅増収、また出来高の増加を受けてエグゼキューションも増収となりました。

金融費用以外の費用



決算のポイント

<通期>

金融費用以外の費用: 1兆4,205億円
(前年比10%増)

- 人件費 (前年比9%増)
 - 業績に応じた賞与引当の増加に加え、円安進行も人件費を押し上げ
- 支払手数料 (前年比29%増)
 - 全地域で取引の活発化により支払手数料が上昇、円安進行も影響

<第4四半期>

金融費用以外の費用: 3,550億円
(前四半期比2%減)

- 人件費 (前四半期比10%減)
 - 業績に応じて賞与引当が減少、前四半期に増加した繰延報酬や福利厚生費の反動減
- その他 (前四半期比4%増)
 - 前四半期に損失として計上した海外子会社の清算手続き進捗に伴う為替換算調整額が剥落する一方、専門家報酬やその他取引関係費等は増加

15

次にコストについてご説明します。15ページをご覧ください。

全社コストは3,550億円、2%低下しました。

うち人件費が1,723億円と、10%減少、主にトップラインに応じて賞与引当が減少したことが要因となっています。

強固な財務基盤を維持

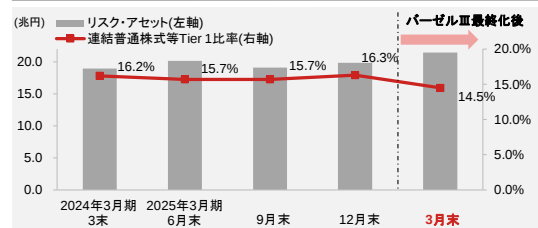
バランス・シート関連指標と連結総自己資本規制比率

	2024年 3月末	2024年 12月末	2025年 3月末 ¹
資産合計	55.1兆円	60.5兆円	56.8兆円
当社株主資本	3.4兆円	3.6兆円	3.5兆円
グロス・レバレッジ	16.5倍	17.0倍	16.4倍
調整後レバレッジ ¹	10.2倍	11.1倍	11.0倍
レベル3資産 ² (デリバティブ負債相殺後)	1.0兆円	1.4兆円	1.3兆円
流動性ポートフォリオ	8.4兆円	10.3兆円	10.2兆円

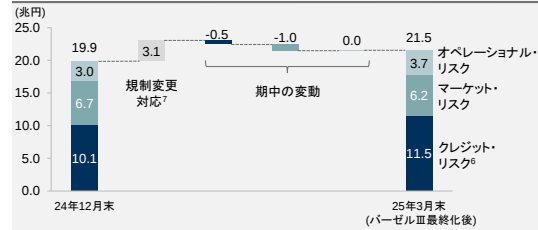
(10億円)	2024年 3月末	2024年 12月末	2025年 3月末 ² (バーゼルⅢ 最終化後)
Tier 1資本	3,468	3,633	3,501
Tier 2資本	0.5	0.5	0.5
総自己資本の額	3,468	3,634	3,501
リスク・アセット	18,976	19,877	21,480
連結Tier 1比率	18.2%	18.2%	16.2%
連結普通株式等Tier 1比率 ³	16.2%	16.3%	14.5%
連結総自己資本規制比率	18.2%	18.2%	16.2%
連結レバレッジ比率 ⁴	5.24%	5.02%	5.18%
適格流動資産(HQLA) ⁵	6.5兆円	7.2兆円	7.2兆円
連結流動性カレッジ比率(LCR) ⁵	202.7%	213.8%	234.1%
TLAC比率(リスクアセット・ベース)	33.0%	32.1%	28.1%
TLAC比率(総エクスポージャー・ベース)	10.4%	9.7%	9.9%

1. 調整後レバレッジは、総資産の額から無条件付買入有価証券および買入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率
2. 2025年3月末のHQLA、LCRは確定数値、それ以外は暫定数値
3. 連結普通株式等Tier 1比率: Tier 1資本から、その他Tier 1資本を控除し、リスク・アセットで除したものの
4. Tier 1資本を、エクスポージャー(額・オンバランス項目・オフバランス項目)で除したものの
5. 四半期の日次平均の値
6. クレジット・リスクにはCVAを含む
7. 期中で行われた規制対応の影響額を含む概算値

リスク・アセット、連結普通株式等Tier 1比率³



リスク・アセットの変動²



最後に、財務基盤です。16ページをご覧ください。

左下にありますように、3月末のTier 1比率は16.2%、普通株式等Tier 1比率は14.5%と、12月末から2%ポイントほど低下しています。この背景は、自己資本規制比率の新規制、いわゆるバーゼル3最終化ルールが、3月末から適用開始となったことです。

当社は、普通株式等Tier 1比率の中期的な目線を11%以上としていますので、新ルール適用後も十分な資本水準を維持できています。

以上、第4四半期の決算について、ご説明いたしました。

最後になりますが、昨年5月に、2030年に向けた経営ビジョン「Reaching for Sustainable Growth」を発表し、計数目標として、ROE 8~10%+の安定的な達成と5,000億円超の税前利益の達成を掲げました。そこから1年が経過し、野村グループの持続的な成長を実現するためのフランチャイズ作りが大きく前進しています。

特にハイライトしたいのは、「安定収益の飛躍的な拡大」に向けた取り組みです。先ほど申し上げましたように、ウェルス・マネジメント部門のストック収入、インベストメント・マネジメント部門の事業収益は記録的な水準に積み上がりました。そして今週、マッコーリー・グループと、同社の米国・欧州のパブリック・アセットマネジメント事業を買収することで合意し、インベストメント・マネジメント部門のグローバル化、規模拡大を通じて、非連続的な成長を実現する大きな足掛かりを得ました。4月には、当社の銀行・信託機能を活用し、より多様で質の高いサービスを提供するために、バンキング部門を新設しました。こうした日本、そしてグローバルでの取り組みを通じて、安定成長の歩みを確かなものにしていくつもりです。

Financial Supplement

経営として、資本効率も重視しています。3月末から、バーゼル3最終化ルールが適用となりましたが、普通株式等Tier 1比率は、中期的な目線である11%を十分に上回っています。本日の自己株式取得は、こうした資本水準と足元の株価水準も考慮して、決めさせていただきました。今後も余剰資本については、戦略に沿った成長領域への投資と株主還元の両立を、追求していく方針です。

4月足元は、トランプ政権による相互関税政策をきっかけに、不透明な環境が続いていますが、こうした環境だからこそ、私たち野村グループに求められる役割は大きいと感じています。ウェルス・マネジメント部門ではお客様の様子見姿勢が続き、収益はややスローダウンしていますが、3日連続で株価が大きく下げる局面では、押し目買いも入り、部門全体で買い越しとなりました。パートナーが適切な情報提供を行うことで、お客様の売り急ぎも抑えられ、PWMやWM領域では継続してストック資産純増が来ています。ホールセール部門では、マーケットのボラティリティが急上昇するなか、エクイティや為替／エマージングが活況で、部門収益は第4四半期を上回って進捗しています。

野村グループの豊富な人材と強固な財務基盤、そしてグローバルな展開力は、こうした不透明な環境だからこそ、強みとして発揮されると思います。創立100周年を迎え、更なる成長を遂げるべく、取り組んでまいりますので、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

バランス・シート関連データ

連結貸借対照表

(10億円)							
	2024年 3月末	2025年 3月末	前期比 増減		2024年 3月末	2025年 3月末	前期比 増減
資産				負債			
現金・預金	5,155	5,515	360	短期借入	1,055	1,117	63
貸付金および受取債権	6,834	7,449	615	支払債務および受入預金	6,490	7,249	759
担保付契約	20,995	18,664	-2,331	担保付調達	19,397	18,646	-751
トレーディング資産および プライベートエクイティ・デット投資 ¹	19,657	22,524	2,867	トレーディング負債	10,891	11,379	488
その他の資産 ¹	2,507	2,651	144	その他の負債	1,415	1,457	42
				長期借入	12,452	13,374	922
負債合計				負債合計	51,699	53,221	1,522
資産合計	55,147	56,802	1,655	資本			
				当社株主資本合計	3,350	3,471	121
				非支配持分	98	110	12
				負債および資本合計	55,147	56,802	1,655

1. 担保差入有価証券を含む

バリュー・アット・リスク

- VaRの前提

- 信頼区間 : 95%

- 保有期間 : 1日

- 商品の価格変動等を考慮
- VaRの実績(10億円)

- 期間 : 2024.4.1~2025.3.31

- 最大 : 6.9

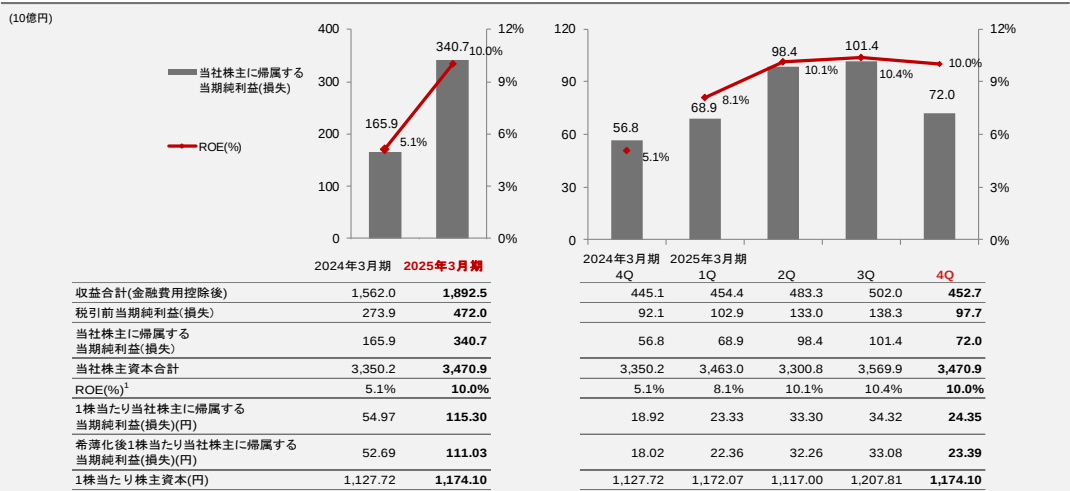
- 最小 : 3.5

- 平均 : 5.2

(10億円)

	2024年3月期 3月末	2025年3月期 3月末	2024年3月期 3月末	2025年3月期 6月末	2025年3月期 9月末	2025年3月期 12月末	2025年3月期 3月末
株式関連	3.3	2.0	3.3	3.2	3.0	3.3	2.0
金利関連	2.6	2.1	2.6	2.6	2.4	2.4	2.1
為替関連	2.1	1.5	2.1	2.4	2.4	1.7	1.5
小計	8.0	5.6	8.0	8.2	7.8	7.4	5.6
分散効果	-2.5	-1.8	-2.5	-2.9	-2.4	-2.3	-1.8
連結VaR	5.5	3.8	5.5	5.3	5.4	5.1	3.8

連結決算概要



1. 四半期のROEは、各決算期累計の当期純利益を年率換算して算出

連結損益

(10億円)			2024年3月期 2025年3月期				
	2024年3月期	2025年3月期	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
収益							
委託・投信募集手数料	364.1	407.0	106.7	102.8	101.4	102.6	100.3
投資銀行業務手数料	173.3	212.2	48.3	41.3	53.3	64.4	53.3
アセットマネジメント業務手数料	310.2	378.2	84.2	90.3	93.8	97.2	96.8
トレーディング損益	491.6	580.1	134.4	132.0	147.7	142.0	158.4
プライベートエクイティ・デット投資 関連損益	11.9	7.6	2.0	3.2	1.6	1.6	1.2
金融収益	2,620.9	2,927.9	726.4	788.6	763.0	745.5	630.9
投資持分証券関連損益	9.6	0.4	5.4	1.4	-2.6	1.6	-0.1
その他	175.8	223.3	63.4	58.4	83.3	43.0	38.5
収益合計	4,157.3	4,736.7	1,170.8	1,217.9	1,241.6	1,197.9	1,079.4
金融費用	2,595.3	2,844.3	725.7	763.4	758.2	696.0	626.6
収益合計(金融費用控除後)	1,562.0	1,892.5	445.1	454.4	483.3	502.0	452.7
金融費用以外の費用	1,288.2	1,420.5	353.0	351.5	350.3	363.7	355.0
税引前当期純利益(損失)	273.9	472.0	92.1	102.9	133.0	138.3	97.7
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	165.9	340.7	56.8	68.9	98.4	101.4	72.0

連結決算: 主な収益の内訳

(10億円)		2024年 3月期	2025年 3月期	2024年3月期		2025年3月期		
				4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
委託・投信募集手数料	委託手数料-株式	242.7	264.5	72.7	64.9	66.9	66.3	66.3
	委託手数料-株式以外	15.6	17.5	3.8	4.1	4.4	4.4	4.7
	投信募集手数料	56.2	66.1	15.7	20.3	14.5	17.3	14.0
	その他手数料	49.5	58.9	14.5	13.4	15.5	14.6	15.3
	合計	364.1	407.0	106.7	102.8	101.4	102.6	100.3
投資銀行業務手数料	株式	45.5	52.9	9.9	7.4	19.3	17.6	8.6
	債券	27.5	48.4	9.0	8.8	11.4	14.9	13.2
	M&A・財務コンサルティングフィー	61.6	78.7	17.0	16.6	15.3	22.0	24.7
	その他	38.8	32.2	12.4	8.4	7.3	9.8	6.7
	合計	173.3	212.2	48.3	41.3	53.3	64.4	53.3
アセットマネジメント 業務手数料	アセットマネジメントフィー	193.5	235.9	52.5	55.9	58.3	61.0	60.8
	アセット残高報酬	88.2	109.1	23.9	26.5	27.3	27.8	27.6
	カストディアルフィー	28.5	33.2	7.7	8.0	8.3	8.4	8.5
	合計	310.2	378.2	84.2	90.3	93.8	97.2	96.8

連結決算:セグメント情報と地域別情報 税前利益(損失)

連結決算数値とセグメント数値間の調整:税前利益(損失)

(10億円)	2024年3月期 2025年3月期		2024年3月期 2025年3月期				
			4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ウェルス・マネジメント部門	122.7	170.8	38.8	42.3	45.3	46.2	37.0
インベストメント・マネジメント部門	60.2	89.6	17.8	23.2	31.9	18.9	15.5
ホールセール部門	53.9	166.3	20.6	21.1	45.3	62.4	37.5
3セグメント合計税前利益	236.8	426.6	77.1	86.6	122.5	127.5	90.1
その他	47.4	46.9	10.8	15.1	13.7	10.2	7.8
セグメント合計税前利益	284.2	473.5	87.9	101.7	136.2	137.7	97.9
営業目的で保有する 投資持分証券の評価損益	-10.3	-1.5	4.2	1.2	-3.2	0.6	-0.2
税前利益(損失)	273.9	472.0	92.1	102.9	133.0	138.3	97.7

地域別情報:税前利益(損失)¹

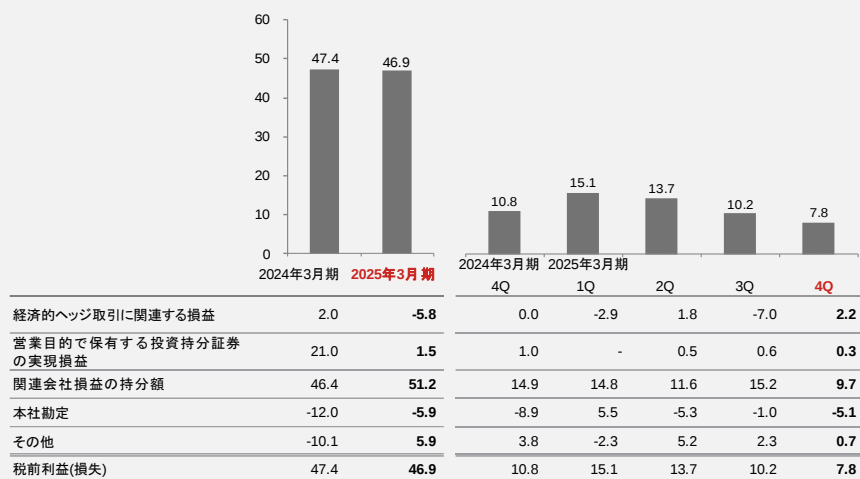
(10億円)	2024年3月期 2025年3月期		2024年3月期 2025年3月期				
			4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
米 州	14.7	65.8	14.3	13.3	19.8	18.3	14.4
欧 州	-33.1	20.3	-18.8	-4.8	3.0	16.2	5.9
アジア・オセアニア	23.8	50.9	9.3	8.4	17.0	17.3	8.1
海外合計	5.4	137.0	4.8	17.0	39.8	51.8	28.5
日本	268.5	335.0	87.3	86.0	93.3	86.5	69.3
税前利益(損失)	273.9	472.0	92.1	102.9	133.0	138.3	97.7

1. 米国会計原則に基づく「地域別情報」を記載(但し当第4四半期の数値は速報値)。米国会計原則に基づく「地域別情報」は、その収益および費用の各地域への配分が原則として役務の提供される法的主体の所在国に基づき行われており、当社において経営管理目的で用いられているものではありません

セグメント「その他」

税前利益(損失)

(10億円)

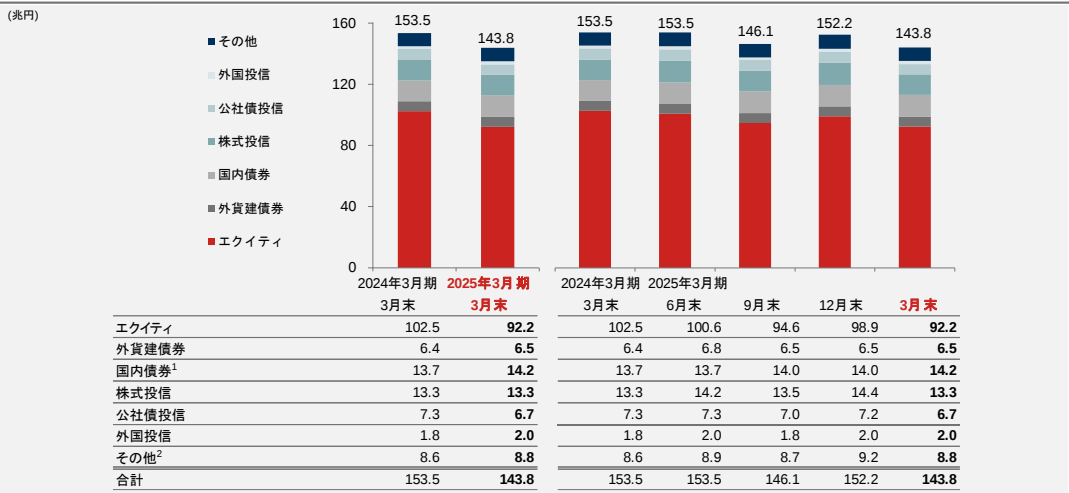


ウェルス・マネジメント部門関連データ(1)

(10億円)	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期	2025年3月期						
			4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前四半期比	前年同期比	
委託・投信募集手数料	173.5	183.6	49.1	49.8	43.3	47.1	43.3	-8.0%	-11.8%	
うち株式委託手数料	80.2	72.2	25.1	19.1	17.7	18.1	17.4	-3.9%	-30.9%	
うち投資信託募集手数料	54.9	65.9	15.0	20.2	14.1	17.3	14.3	-17.2%	-4.4%	
販売報酬	55.9	52.5	14.0	14.5	15.6	11.5	10.8	-5.7%	-22.6%	
投資銀行業務手数料等	23.1	27.3	5.1	4.4	10.5	8.7	3.7	-57.6%	-27.6%	
投資信託残高報酬等	124.4	156.7	33.9	37.5	39.0	40.1	40.2	0.3%	18.7%	
純金融収益等	25.5	31.4	6.7	7.7	8.2	8.9	6.5	-27.1%	-2.9%	
収益合計(金融費用控除後)	402.4	451.5	108.8	114.0	116.7	116.3	104.5	-10.1%	-3.9%	
金融費用以外の費用	279.7	280.7	70.0	71.7	71.4	70.1	67.5	-3.7%	-3.6%	
税前利益	122.7	170.8	38.8	42.3	45.3	46.2	37.0	-19.8%	-4.5%	
国内投信販売金額	3,271.8	3,882.8	966.9	1,203.5	899.0	942.0	838.3	-11.0%	-13.3%	
株式投信	2,525.9	3,107.2	664.0	955.6	719.8	719.5	712.3	-1.0%	7.3%	
外国投信	745.9	775.6	302.9	247.9	179.2	222.5	126.0	-43.3%	-58.4%	
その他										
個人向け国債販売額 (約定ベース)	398.9	317.9	68.5	113.4	38.6	89.0	76.8	-13.7%	12.1%	

ウェルス・マネジメント部門関連データ(2)

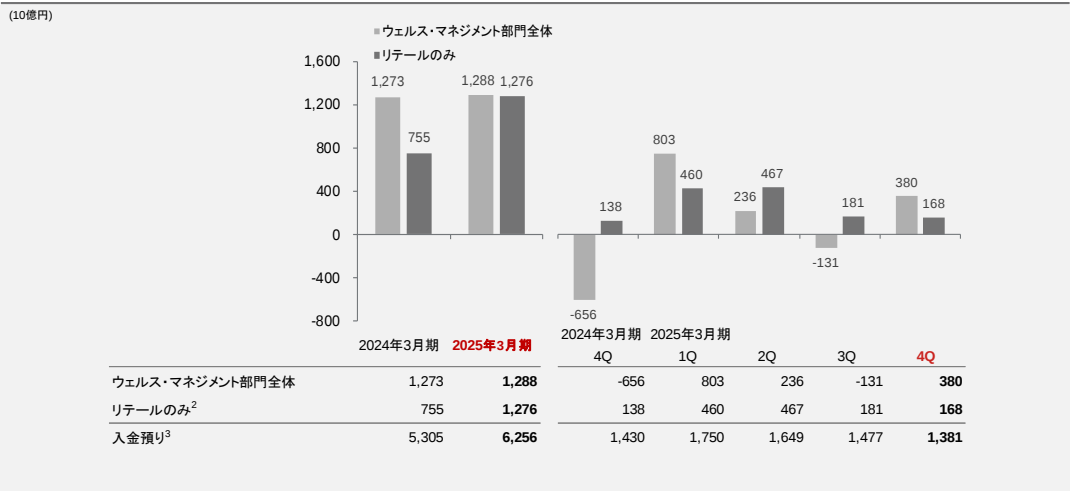
ウェルス・マネジメント部門顧客資産残高



1. CB・ワラントを含む 2. 年金保険契約資産残高を含む

ウェルス・マネジメント部門関連データ(3)

現金本券差引¹



1. 現金および本券の流入から流出を差引
2. リテールは、ウェルス・マネジメント部門全体の金額から、法人課、プライベート・ウェルス・マネジメントグループ及びワークプレイス・サービスを除いて算定。2025年3月期1Qから集計範囲を変更したことから、2024年3月期4Q以前の数字を遡及修正
3. リテールのみ対象。2025年3月期1Qから集計範囲を変更したことから、2024年3月期4Q以前の数字を遡及修正

ウェルス・マネジメント部門関連データ(4)

口座数

(千口座)	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期 2025年3月期				
	3月末	3月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
残あり顧客口座数	5,496	5,934	5,496	5,524	5,888	5,925	5,934
株式保有口座数	2,972	3,285	2,972	2,978	3,265	3,275	3,285
NISA開設口座数 ¹	1,780	1,779	1,780	1,745	1,763	1,771	1,779
オンラインサービス口座数	5,582	5,974	5,582	5,655	5,796	5,881	5,974

個人新規開設口座数・IT比率²

(千口座)	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期 2025年3月期				
			4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
個人新規開設口座数	334	372	99	83	81	99	109
IT比率 ²							
売買件数ベース	84%	85%	84%	84%	86%	85%	87%
売買金額ベース	59%	60%	59%	58%	61%	59%	62%

1. 2024年6月末時点の数値からジュニアNISA口座数を含まない
2. 親御様のうち、オンラインサービスを通じて売買された割合

インベストメント・マネジメント部門関連データ(1)

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

	(10億円)		2024年3月期 2025年3月期					前四 半期比	前年 同期比
	2024年3月期	2025年3月期	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
事業収益	137.2	163.7	38.0	39.1	39.4	42.0	43.3	3.1%	13.9%
投資損益	16.9	28.8	5.6	8.6	16.7	3.8	-0.2	-	-
収益合計(金融費用控除後)	154.1	192.5	43.6	47.7	56.1	45.7	43.0	-5.9%	-1.3%
金融費用以外の費用	93.9	102.9	25.8	24.5	24.2	26.8	27.5	2.6%	6.5%
税前利益(損失)	60.2	89.6	17.8	23.2	31.9	18.9	15.5	-17.9%	-12.5%

運用資産残高 - 会社別¹

	(兆円)		2024年3月期 2025年3月期				
	3月末	3月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
野村アセットマネジメント	91.0	88.1	91.0	91.4	87.7	92.2	88.1
ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント他	5.6	5.5	5.6	6.2	5.9	6.3	5.5
運用資産残高(グロス) ²	96.6	93.6	96.6	97.5	93.6	98.5	93.6
グループ会社間の重複資産	7.6	4.3	7.6	5.0	4.8	4.9	4.3
運用資産残高(ネット) ³	89.0	89.3	89.0	92.5	88.8	93.5	89.3

1. 2024年4月1日付の米州の納税再編成に伴い、2024年6月末の野村アセットマネジメントの運用資産残高(グロス)およびグループ会社間の重複資産から同額の運用資産残高が減少
2. 野村アセットマネジメント、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、フェリス・スクエアの運用資産並びにインベストメント・マネジメント部門傘下の運用会社の運用資産に対する第三者による投資額の合計
3. 運用資産残高(グロス)から重複資産控除後

インベストメント・マネジメント部門関連データ(2)

インベストメント・マネジメント部門 資金流入ービジネス別¹

(10億円)	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期 2025年3月期				
			4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
投資信託ビジネス	1,845	2,113	780	695	655	489	274
うちETF	473	987	296	145	521	-352	673
投資顧問・海外ビジネス他	1,915	536	347	256	468	-229	40
資金流入 合計	3,760	2,648	1,128	951	1,123	260	314

国内公募投信残高推移と野村アセットマネジメントのシェア²

(兆円)	2024年3月期		2024年3月期 2025年3月期				
	3月末	3月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
国内公募投信残高							
マーケット	227.0	236.3	227.0	237.4	230.2	246.0	236.3
野村アセットマネジメントシェア	26%	25%	26%	26%	25%	25%	25%
国内公募株式投信残高							
マーケット	211.0	221.5	211.0	221.6	215.2	230.3	221.5
野村アセットマネジメントシェア	25%	24%	25%	24%	24%	24%	24%
国内公募公社債投信残高							
マーケット	16.0	14.8	16.0	15.8	15.0	15.7	14.8
野村アセットマネジメントシェア	44%	44%	44%	44%	44%	45%	44%
ETF残高							
マーケット	89.6	85.8	89.6	89.6	85.9	89.4	85.8
野村アセットマネジメントシェア	43%	44%	43%	44%	44%	44%	44%

1. 運用資産残高(ネット)に基づく資金流入 2. 出所:投資信託協会

ホールセール部門関連データ

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

	2024年3月期 2025年3月期		2024年3月期 2025年3月期				4Q	前四 半期比	前年 同期比
			4Q	1Q	2Q	3Q			
収益合計(金融費用控除後)	866.1	1,057.9	254.2	244.8	263.4	290.5	259.2	-10.8%	2.0%
金融費用以外の費用	812.2	891.7	233.6	223.7	218.1	228.2	221.7	-2.8%	-5.1%
税前利益(損失)	53.9	166.3	20.6	21.1	45.3	62.4	37.5	-39.9%	82.3%

ホールセール部門 収益の内訳

	2024年3月期 2025年3月期		2024年3月期 2025年3月期				4Q	前四 半期比	前年 同期比
			4Q	1Q	2Q	3Q			
フィクスト・インカム	420.3	499.2	122.6	125.6	127.8	139.9	105.8	-24.4%	-13.7%
エクイティ	286.8	375.4	81.9	82.0	93.2	99.1	101.1	2.1%	23.5%
グローバル・マーケット	707.1	874.6	204.4	207.7	221.1	239.0	206.9	-13.4%	1.2%
インベストメント・バンキング	159.0	183.3	49.8	37.2	42.3	51.5	52.3	1.5%	5.1%
収益合計(金融費用控除後)	866.1	1,057.9	254.2	244.8	263.4	290.5	259.2	-10.8%	2.0%

人員数

	2024年3月期 3月末	2025年3月期 3月末	2024年3月期 3月末	2025年3月期 6月末	2025年3月期 9月末	2025年3月期 12月末	2025年3月期 3月末
日本	14,870	14,830	14,870	15,215	15,045	14,977	14,830
欧州	3,053	3,133	3,053	3,057	3,111	3,114	3,133
米州	2,440	2,417	2,440	2,450	2,502	2,433	2,417
アジア・オセアニア ¹	6,487	6,815	6,487	6,622	6,724	6,736	6,815
合計	26,850	27,195	26,850	27,344	27,382	27,260	27,195

1. インド・ボワイ・オフィスを含む

Disclaimer

本資料は、野村ホールディングス株式会社が、米国会計基準による2025年3月期第4四半期に関する情報の提供を目的として作成したものです。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。売付または買付の勧誘は、それぞれの国・地域の法令諸規則等に則って作成・配布される募集関連書類または目論見書に基づいて行われます。

本資料に掲載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源より取得したものです。その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本資料の一切の権利は別段の記載がない限り野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

本資料は、将来の予測等に関する情報（「将来予測」）を含む場合があります。また当社の経営陣は将来予測に関する発言を行うことがあります。これらの情報は、過去の事実ではなく、あくまで将来の事象に対する当社の予測にすぎず、その多くは本質的に不確実であり、当社が管理できないものであります。実際の結果や財務状態は、これらの将来予測に示されたものとは、場合によっては著しく異なる可能性があります。したがって、将来予測は、過度に信頼すべきではなく、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。実際の結果に影響を与える可能性がある重要なリスク要因として は、経済情勢、市場環境、政治的イベント、投資家のセンチメント、セカンダリー市場の流動性、金利の水準とボラティリティ、為替レート、有価証券の評価、競争の条件と質、取引の回数とタイミング等が含まれるほか、当社ウェブサイト(<https://www.nomura.com>)、EDINET(<https://info.edinet-fsa.go.jp/>)または米国証券取引委員会(SEC)ウェブサイト(<https://www.sec.gov>)に掲載されている有価証券報告書等、SECに提出した様式20-F年次報告書等の当社の各種開示書類にもより詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来予測に変更があった場合でも、当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

Nomura Holdings, Inc.
www.nomura.com/jp/